

杉山 文野氏 (株式会社ニューキャンパス代表 フェンシング元女子日本代表)



1981年東京都新宿区生まれ。フェンシング元女子日本代表。

早稲田大学大学院にてジェンダー・セクシュアリティを中心に研究した後、その研究内容とトランスジェンダーである自身の体験を織り交ぜた『ダブルハピネス』を講談社より出版。

卒業後、2年間のバックパッカー生活で世界約50カ国+南極を巡り、現地で様々な社会問題と向き合う。帰国後、一般企業に3年ほど勤め、現在は「違いを知り、違いを楽しむ場をつくる」をテーマに、LGBTQの啓発を中心とした飲食店の経営やイベントの運営、全国各地で年間100本を超える講演会やメディア出演など活動は多岐にわたる。

日本初となる渋谷区・同性パートナーシップ制度制定に関わり、現在は日本フェンシング協会理事、日本オリンピック委員会理事なども兼任。パートナーとの間に二児をもうけ、精子提供者である友人と共に3人親として子育てを行う、新しいファミリーのスタイルも話題となった。著書に「元女子高生、パパになる」(文藝春秋)、「3人で親になってみた ママとパパ、ときどきゴンちゃん」(毎日新聞出版)など。

***青少年委員の感想**

今回の講演では当事者から直接話を聞くことができ、大変勉強になりました。例えば、LGBTQを初めとするマイノリティについて、単なる”少数派”として片付けることなく、多種多様な考えの一つとして柔軟な対応をしていくことの必要性を感じました。また、講演を聴き、様々な課題がある中で、未来に向けて皆がお互い歩みより寄り添える世の中になる為には、企業、スポーツ界や世間一般までが広く問題意識を持ち、日本軸ではなく”世界軸”で考えていかねばならないと思いました。

広報委員 関川 憲一

新任委員紹介

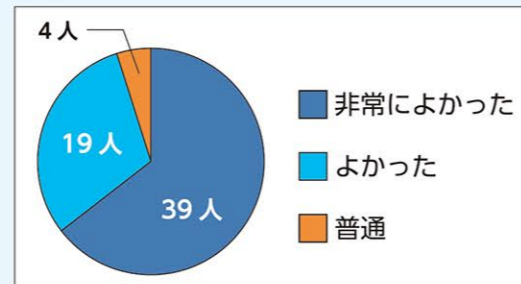


4ブロック
齋藤 春
推薦母体 石浜小学校 PTA

今年度より青少年委員を務めさせていただくことになりました。子供たちの笑顔のために頑張っておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

参加者アンケート

1. 講演の内容について



2. 感想

- ・LGBTQに対する理解が深まった。
- ・身近に、自分事として考えることができた。
- ・LGBTQの方が抱える生きづらさを知ることができた。
- ・どう向き合っていけばよいか知ることができた。

3. 今後の活動で実践していきたいこと

- ・ウェルカミングアウトを実践していきたい
- ・子供たちにLGBTQの正しい知識を伝えていきたい
- ・誰もが生きやすい社会を作っていく一役を担いたい。
- ・自分の価値観や先入観、概念について再確認したい。



第68号

発行者 台東区青少年委員協議会
台東区
編集者 台東区青少年委員協議会
広報委員会
発行日 令和5年9月22日



令和5年度合同地区懇談会集合写真

合同地区懇談会を開催して



台東区青少年委員協議会
会長 谷中田 國弘

日頃より台東区青少年委員協議会にご理解ご協力いただき感謝いたします。本年5月より新型コロナウイルス感染症が5類に移行され、世の中が少しずつ通常に戻りつつあります。台東区内においても各祭礼やイベントなどがコロナ禍以降久しぶりに開催出来るようになりました。また、区内の教育現場でも各種の行事が通常開催されています。私達、台東区青少年委員協議会も本年度は通常通りの事業を行う事が出来ています。本年は2年ぶりの合同地区懇談会を開催いたしました。昨年、青少年に関わる様々な課題や問題が取り上げられていますが、そのような中で今回は「はじめてのLGBTQ」性の多様性を考える」を講演テーマに、杉山文野先生をお迎えしてご講演いただきました。杉山先生のお話を伺い、私たち青少年委員にとっても他者を思いやり偏見や差別をなくしていく新たな社会を考える良い機会となりました。この講演会で得た知識・考え方を台東区の子供達に少しでも伝えたいと思います。今回の合同地区懇談会は「青少年応援プロジェクト@地域」として東京都の事業を活用させていただき、都と共催で開催いたしました。合同地区懇談会を開催するに当たり、ご尽力いただきました杉山氏、東京都ご担当者様及びご出席の皆様にご礼申し上げます。

台東区青少年委員 70 周年 令和 5 年度合同地区懇談会

～青少年に豊かな心とよりよい環境を～
(青少年応援プロジェクト@台東区)

- *主 催 台東区青少年委員協議会／東京都
- *講 師 株式会社ニューキャンパス代表
フェンシング元女子日本代表
杉山文野氏
- *日 時 令和 5 年 7 月 1 日 (土)
午後 2 時～
- *会 場 台東区立生涯学習センター
ミレニアムホール
- *司 会 副会長 永井 重孝
- *開会の辞 副会長 西 郁朗
- *挨拶 会長 谷中田 國弘
- *青少年委員協議会ブロック紹介
- *閉会の辞 副会長 生駒 秀二

*合同地区懇談会 出席者
各園小中学校長・副校長、各園小中学校
PTA、各児童館長、青少年育成地区委員会
役員、民生・児童委員、青少年指導者育成
者会、前青少年委員、区民事務所等所長・
副所長（順不同・敬称略）

*講演内容
テーマ「はじめての LGBTQ
～性の多様性を考える～」
当日の内容を抜粋、要約して掲載いたします。



会長挨拶



記念すべき台東区青少年委員 70 周年となる今年度の合同地区懇談会は、男性の心と女性の体を持って生まれたトランスジェンダーであり、フェンシング元日本代表選手でもある杉山文野氏をお迎えして講演会を開催しました。

1. 自己紹介

歌舞伎町の老舗とんかつ店の次女として生まれ、幼小中高と女子校に通いましたが、次第に自分の体に対する違和感を覚えながらも、誰にも相談できず一人悩む日々でした。カミングアウトした後も「性同一性障害の人」と言われることに窮屈さを覚え海外に行きましたが、どこに行っても「自分自身の性別からは逃げられない。ならば生きやすい場所を探すのではなく、今いる場所を生きやすく変えていこう」という考え方に辿りつき、それが現在の活動の原点となりました。

2. 多様な性の存在

これまでは「男性か、女性か」という二極で考えられてきましたが、「ジェンダー平等の実現」を進める国際社会では男女以外の性を認める流れがあり、いくつかの要素の組み合わせで考えます。

【生物学的な性(戸籍上の性)】【性自認】【性的指向】【表現する性】それぞれの要素の組み合わせが多数あり、さらに人それぞれ濃淡も違います。それは「セクシュアリティの個性」であり、人間の数だけ「性」があるといっても過言ではありません。

3. LGBTQ ってなんだろう

LGBTとは、レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダー、この四つの頭文字を取ったもので、いわゆるセクシュアルマイノリティを指す言葉です。最後のQというのはクエスチョニング(Questioning)、性のありかたが定まっていない人を含む幅広い人々の指向を含みます。最近ではSOGI(Sexual Orientation and Gender Identity=性的指向と性自認)という言葉も並行して使います。誰を好きになるのか、自分の性をどう認識するのか、性的少数派・多数派に関係なくすべての人に関わる言葉です。

また日本ではトランスジェンダーに「性同一性障害」という病名を付けることがありますが、世界的に見るとこれは「障害」ではなく【一つの生き方】であり、今後見直される方向にあると思います。

4. 僕のライフヒストリー

トランスジェンダーは他のLGBと違って見た目が変わるなど、特有の性別の移行期があります。いわゆる第二性徴というのが始まって、身体は順調に女性として成長する一方で、気持ちの上ではどんどん男性としての自我が強くなっていく。もう「引き裂かれる」等の簡単な言葉では済まされないような心理状況を体験しました。その頃はトランスジェンダーとしてどのように生きていけばよいのかというロールモデル(お手本)がありませんでした。転機となったのは、好きな女の子に振られて、カミングアウトしたことでした。その時「話してくれてありがとうね。性別がどうであれ、文野は文野に変わりないじゃん」と友達は言ってくれました。僕は僕だって言っても友達だって言ってくれる人がいたんだ・・・と、そこから少しずつ仲のいい友達にカミングアウトするようになって、少しずつ自己肯定感を取り戻して、今に至ることができました。



5. ビジネスとLGBTQ

全人口に対するLGBTQの割合は5～8%(13人に1人)、これは左利きの方の割合や、名字が佐藤さん、鈴木さん、高橋さん、田中さんの方を合わせた割合とほぼ同じと言われています。ビジネスの現場では、顧客の5～8%がLGBTQかもしれない、そして自社の従業員の5～8%がLGBTQかもしれない、という前提で動き始めています。

例えば、同性愛者同士でも式だけは挙げたい、指輪ぐらい買いたいといったサービスや商品を提供する企業が出てきています。また採用でも同じように同性愛者に対して差別的な扱いがおきないように配慮する動きが出てきています。LGBTQは性行為の話ではなくアイデンティティ(自分が何者であるか)の話である、という認識が

大事です。

6. 国内外におけるLGBTQの動向

日本では一旦戸籍で登録された性別を変更するには困難な条件があり、変更できない方が多いです。僕自身も性別は「女性」のままです。

トランスジェンダーの人口も先ほどの割合でいうと0.7%程度(1%未満)で、全体に占める影響は少ないはずなのですが、「トイレの問題」など、誤解と偏見に満ちた問題が、よく話題にのぼります。中でも僕は子供のサポートが必要だと思い、「ハートをつなごう学校(<http://heartschool.jp/>)」の中で子供たちのロールモデル(お手本)を明示するサポートを行っています。

ただ世界中には同性愛行為を違法と見做す国がまだまだあります。日本もLGBT法案が作られましたが「差別禁止」を盛り込むには至りませんでした。

最後に「実は僕、ゲイなんです。でも中々ほかの人には言えなくて…」と言われたら皆さん、どのように返答するのでしょうか？大事なことは、貴方なら信頼できると思って、これまで以上によりよい関係性を築くために大事な話を伝えているということです。まずは話を遮らずにしっかりと相手の話を聞いてみてください。「話してくれてありがとうね」「何でも話してね」「間違えちゃったらごめんね」です。そして他の人に吹聴(アウティング)しないようにしてください。

7. まとめ

日本で最初に「パートナーシップ制度」を作ったのは渋谷区の長谷部健区長でした(2015年)。実は長谷部氏が始めた「グリーンバード」というゴミ拾い活動に僕もたまたま参加していて、「ダブルハピネス」という本の出版と時期が重なり、全国から僕に会いに来るLGBTQの人々を見て、パートナーシップ制度の発案に至ったそうです。日常生活の中で出会った者同士が『身近にいる人が困っているのだから出来ることをやってみようか』と言って小さな一歩を踏み出した、この積み重ねが大きな流れに繋がったのではないかと思います。また、皆さんへの取組みの一歩として、カミングアウトを快く受け入れる姿勢を可視化する【ウェルカミングアウト(WELCOME+COMINGOUT)】をお勧めしています。

本日はLGBTQのお話をさせて頂きましたが、この問題に限らず、「既に多様化した社会」の中で暗中模索することが多いと思います。【少数派の課題に向き合う＝多数派の課題に向き合うこと】【少数派にとって優しい社会というのは、きっと多数派にとっても優しい社会】だと思いますので、本日の講演が問題解決のヒントになっていただければ幸いです。